

日・ASEAN友好協力40周年
つながる想い つながる未来



ASEAN–Japan Partnership

Thoughts Connected
Future Connected



40th Year of ASEAN-Japan
Friendship and Cooperation

1973-2013

日・ASEAN対話関係



2013年は日本とASEAN（東南アジア諸国連合）の交流開始から40周年にあたります。1973年の対話に始まり、日本とASEANは日・ASEANフォーラムを1977年3月に開催し、交流関係を正式なものとしました。以後40年の間に、「新千年期における躍動的で永続的な日本とASEANのパートナーシップのための東京宣言」（2003年）および「共に繁栄する日本とASEANの戦略的パートナーシップの強化のための共同宣言（バリ宣言）」（2011年）という2つの重要な宣言が発出され、日・ASEAN関係がさらに強化されました。

日本とASEANは、地域の平和と安定に貢献してきました。日本が大きく寄与した、1990年初頭のカンボジアの平和と政治の安定はASEAN10の実現へとつながりました。さらに、2004年7月の日本の「東南アジア友好協力条約」（TAC）への加盟は、東南アジア諸国間の関係を規定する行動規範として、また地域の平和と安定を促進する外交手段として、TACの重要性をさらに高めることになりました。

テロリズムとの戦いおよび海上保安協力から、災害管理協力・貿易・文化交流の取組みおよび促進に至るまで、日本は過去40年間にわたり常にASEANの最も重要な対話国の一つでした。日本とASEANはお互いに重要な貿易パートナーであり、2012年時点で日本はASEANにとって第二の貿易相手国となっています。貿易、投資および観光の促進をさらに支援するべく、日本アセアンセンター（東南アジア諸国連合貿易投資観光促進センター）が「東南アジア諸国連合貿易投資観光促進センター設立協定」に基づき、1981年5月に設立されました。東京に本部をかまえるセンターは、日本とASEAN加盟国間の経済発展における輸出の増加、投資の流れおよび観光の促進に極めて重要な役割を果たしています。

日本およびASEANは、特に若い世代や有識者の人物・文化交流を重要視しています。日本は、2007年の「21世紀東アジア青少年大交流計画（JENESYS）」および2012年の「アジア大洋州地域及び北米地域との青少年交流（キズナ強化プロジェクト）」といった青少年交流プロジェクトを主導しました。キズナ強化プロジェクトは、2011年に発生した東日本大震災からの日本再生に関する諸外国の理解増進を目的としており、日本およびASEAN諸国の約18,000名の青少年が最終的にこれらのプロジェクトに参加する見込みです。

2011年5月26日、日本は正式にジャカルタにASEAN日本政府代表部を開設しました。これは非ASEAN加盟国としては2番目に開設されたASEAN代表部です。

日本とASEANは、サミット、閣僚会議、高級実務者会議および専門家会議やASEAN主導の地域対話および協力枠組など、さまざまな機構を通して対話を実施してきました。日本は、各地域における開発努力を通じASEAN諸国間の開発格差の是正を図るなど、ASEANの統合や共同体構築への取組みに、広範にわたる支援を提供し続けています。

祝40周年！

日・ASEAN 友好協力の 道のり



パートナーシップの樹立

日本・ASEAN間の最初の対話は、1973年に両者が開催した合成ゴムフォーラムでした。日・ASEAN友好協力は1977年に深まりと広がりを見せ、当時の福田赳夫総理は日本の総理としては初めて、クアラルンプールで開かれた第2回ASEAN首脳会議で各国の首脳と会談しました。同年、フィリピン訪問中に、福田元総理は歴史的な「福田ドクトリン」を発表しました。こうして「心と心の触れあう」外交関係が日・ASEAN友好協力の礎となりました。



PM Fukuda visiting Manila, August 1977

© Cabinet Secretariat, Cabinet Public Relations Office

日本の支援

ASEAN文化基金 [1978年]

日・ASEAN学術交流基金 [1988年]

日・ASEAN連帯基金 [1999年]

日・ASEAN総合交流基金 [2000年]

日・ASEAN統合基金 [2006年]

パートナーシップ の発展

日本政府は、ASEANの政治的、経済的、社会的および文化的発展の重要性を認識し、基金を創設するなど、さまざまな協力を広範囲に行ってきました。国際協力機構（JICA）および日本アセアンセンターの活動を通じても多大な貢献がされてきました。



© ASEAN Secretariat

1967

東南アジア諸国連合
(ASEAN) の設立

1971

東南アジア平和・自由・
中立地帯 (ZOPFAN) 構想

1973

第1回日・ASEAN対話
(合成ゴムフォーラム)



© ASEAN Secretariat

1977

- 第1回日・ASEANフォーラム
- 福田ドクトリン



Cabinet Secretariat

2000

- 日・ASEAN総合交流基金 (JAGEF)

2003

- 日・ASEAN特別首脳会議
- 新千年期における躍動的で永続的な日本とASEANの
パートナーシップのための東京宣言
- 日・ASEAN行動計画

2004

- 日本が東南アジア友好協力
条約 (TAC) に加盟
- インドネシア、アチェ州で
津波



© MOFA, Japan

2005

第1回東アジア首脳会議

2006

- 日・ASEAN統合基金 (JAIF)
- 日・ASEANテロ対策対話

2007

21世紀東アジア青
少年大交流計画
(JENESYS)



© AFS Intercultural Programs, Japan

2008

- 日・ASEAN包括的経済連携協定
(AJCEP)
- ASEAN憲章
- サイクロン「ナルギス」

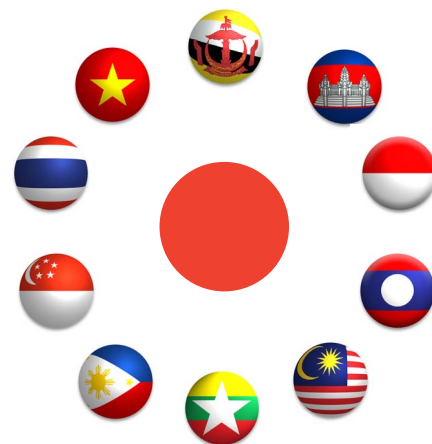
1999

- カンボジアASEAN加盟
- ASEAN基金
- 日・ASEAN連帯基金



1997

- 第1回ASEAN+3首脳会議
- ラオス、ミャンマー
ASEAN加盟



2010

2009

- ASEAN共同体のためのロードマップ
- 第1回日・メコン首脳会議

ASEAN連結性マスターブ
ラン



© ASEAN-Japan Centre

1978

- 第1回日・ASEAN外相会議
- ASEAN文化基金



© MOFA, Japan

1981

日本アセアンセンター
(東南アジア諸国連合
貿易投資観光促進セン
ター)の設立

1984

ブルネイ・ダルサラーム
国ASEAN加盟



1988

日・ASEAN学術交流基金
(JAEP)

1990

カンボジア和平東京会議

1995

ベトナムASEAN加盟



1994

第1回ASEAN地域
フォーラム (ARF)
閣僚会合



© UNTAC

1992

日本が初めて国連平和
維持活動 (PKO) に参加
(国連カンボジア暫定
機構<UNTAC>)

Milestones

日・ASEAN友好協力40周年の軌跡

2011

- 東日本大震災
- ASEAN防災人道支援調整
センター(AHAセンター)の
設立
- ASEAN日本政府代表部開
設
- 共に繁栄する日本と
ASEANの戦略的パートナ
ーシップの強化のための
共同宣言(バリ宣言)
- 日・ASEAN行動計画
2011~2015年



© MOFA, Japan

2012

- ASEAN緊急災害ロジス
ティック・システム
- アジア大洋州地域及び
北米地域との青年交流
キズナ強化プロジェ
クト)



© AHA Centre

2013

日・ASEAN友好協力40周年



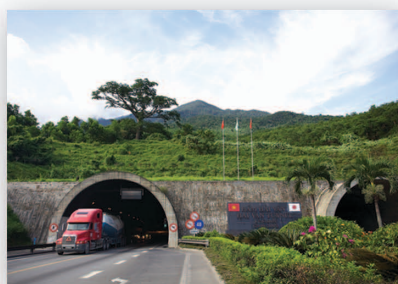
日・ASEANパートナーシップの拡大

原加盟国が5カ国であった当初から、ASEANは東南アジア全体を包含するまでに成長し、ASEAN主導の協力フォーラムや対話も広がりを見せました。地域の堅固な成長と並行して、日・ASEAN協力関係も総じて非常に強固なものとなり、両者にとって最も重要な戦略的協調関係の一つへと転換を遂げました。

日本は、1994年のASEAN地域フォーラム（ARF）および2005年の東アジア首脳会議（EAS）などの新たな、かつ重要な取組みに力強い支援と協力を提供し、ARFおよびEASの閣僚会議に第1回から参加しました。

経済発展およびASEAN連結性への協力

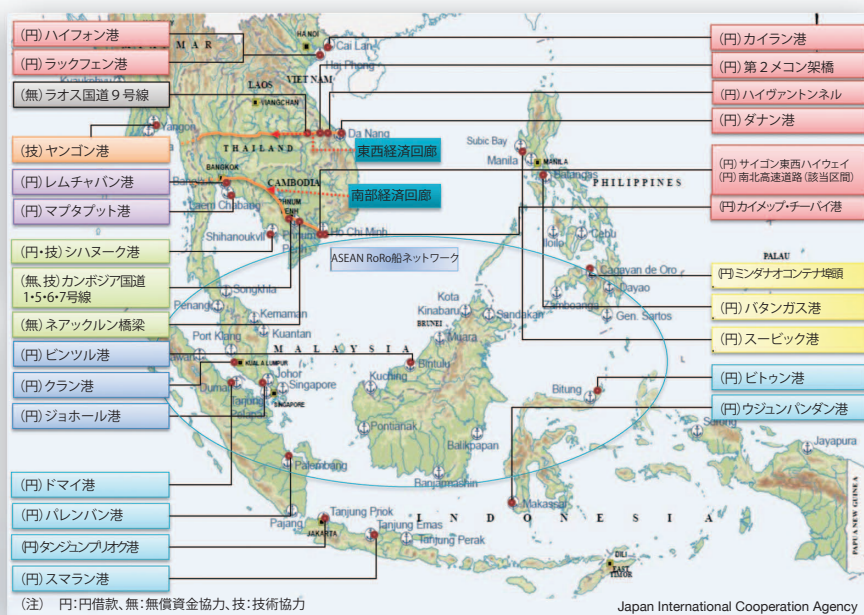
ASEAN地域の発展は、日本にとって常に優先事項です。メコン地域の経済回廊開発などのインフラ整備やASEAN加盟国の人材育成など政府開発援助（ODA）を通じた日本の支援は、ASEANの成長基盤を構築し、今日のASEAN連結性強化の基礎となり未来につながっています。日本は東京にASEAN連結性支援タスクフォースを立ち上げ、マスタープラン実行のためにASEAN連結性調整委員会と継続して協力しています。



© Hikaru Nagatake/JICA

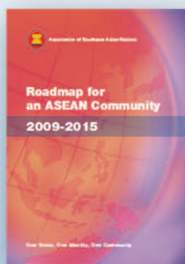


© JICA

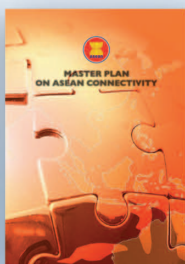


© JICA

共同体構築におけるパートナーシップ



© ASEAN Secretariat



© ASEAN Secretariat

ASEAN首脳は、1997年の「ASEANビジョン2020」および2003年の「第二ASEAN協和宣言（バリ・コンコードII）」を基に、一つのビジョンおよびアイデンティティを共有し、思いやりがあり、人を第一に考えたASEAN共同体を設立するべく加盟国の責任を再確認しました。ASEANの成熟と信頼を軸に、ASEAN共同体設立目標は2015年とされました。

ASEAN統合と共同体構築の取組みを支援するべく、日本は日・ASEAN 統合基金（JAIF）を通じて4億米ドル以上を拠出しました。



未来への交流

福田ドクトリンの「心と心の触れあう」精神のとおり、人と人の交流が日・ASEAN友好関係の重要な基盤となっています。その中心的な取組みとして、日本とASEANの青少年の一体感を高める青少年交流プログラムがあります。

2007年に当時の安倍晋三総理は、「21世紀東アジア青少年大交流計画 (JENESYS)」を立ち上げました。約2億米ドルにのぼる多額の予算を投じ、ASEANから13,000名以上の青少年がJENESYSプログラムを通じて来日しました。

本年1月、安倍総理はASEAN訪問の際に、ASEANを含むアジア諸国との間で「JENESYS 2.0」と名づけ新たに3万人規模の交流実施を表明しました。



災害管理協力および日・ASEANの絆

日本とASEANは自然災害による被害を受けやすい点で共通しています。2004年のインドネシア・アチェ州を襲った破壊的な地震と津波、2008年のミャンマーを襲ったサイクロン「ナルギス」、そして多くの悲しみと未曾有の被害をもたらした2011年の東日本大震災などがその例です。

日本は2004年と2008年の災害の際、ASEANの友好国に先んじて救助と支援物資を送りました。ASEANは2011年の東日本大震災の際、同様に日本を支えました。同年4月に日・ASEAN特別外相会議が開催され、6月にはASEANの事務総長がボランティアチーム「親善キャラバン隊」を率いて来日しました。

日・ASEANの災害管理における協力は、震災後も続いています。日本は、地震から得た教訓や復興努力を日本およびASEANの青少年間で共有するための「キズナ強化プロジェクト」を新たに立ち上げました。

日本は、最先端技術および情報システムを備えたASEAN防災人道支援調整センター (AHAセンター) の設立のため、ASEANタスクフォースに資金を提供しました。また、マレーシアのスパンに設置されたASEAN緊急備蓄システムの開発も支援しました。

日本はASEANと共に、「宇宙から僻地」に至るASEAN防災ネットワーク構築のため引き続き取り組んでいきます。

絆



Ministry of Foreign Affairs
of Japan
<http://www.mofa.go.jp>

The ASEAN Secretariat
<http://www.asean.org>

CIPデータ

日・ASEAN友好協力
つながる想い、つながる未来

ジャカルタ：ASEAN事務局、2013
年1月

327.959
1. 外交—国際関係
2. ASEAN—東アジア—協力

ISBN 978-602-7643-35-2

本出版物の文書は適切な承諾の
下、自由に引用あるいは転載が可
能です。

©東南アジア諸国連合
(ASEAN) 2013
不許複製・禁無断転載



Japan-ASEAN Cooperation

